

# 自由南アフリカの声

## Voice of Free South Africa

2022年10月

No. 80

～ 1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association (TAAA)



## 2022年9月の報告と予定

- 2022年3月～2022年7月 国内では、英語の本・算数セット・サッカーボールを収集、コロナ禍のため、少人数で分類・梱包作業をおこなう。  
南アでは、小学校低学年用に算数セットを使った算数授業のサポート  
対象校全12校の学校図書活動サポート
- 8月 最後のコンテナ輸送用荷物の搬出・トラック積み上げ作業、作業所閉鎖準備
- 9月 英語の本5610冊、算数セット343個、サッカーボール138個が南アに出港

目次	• 作業所閉鎖に伴う本・算数セット・サッカーボール募集終了のお知らせ（久我祐子）	… 2
	• 最後の搬出作業（丸岡晶） TAAA 作業場顛末記（浅見克則）	… 3
	• 毎日新聞 プロジェクトマネージャー平林薫 紹介記事	… 4
	• 現地活動報告「好奇心を引き出す算数セットプロジェクト」（平林薫）	… 5
	• ドゥエシューラ学区対象校12校： 学校図書活動の成果・達成度一覧表	… 9
	• 2021年度会計報告	… 10
	• 活動日誌	… 11
	• 寄付金や本などを下さった方々	… 12



お見事！ ブロック20個積み上げ成功

## 作業所閉鎖に伴う本・算数セット・サッカーボール募集終了のお知らせ

会員、支援者の皆さまへ

日頃はTAAAの活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

早いもので1992年にTAAAが市民グループとして発足してから、30年が経ちました。

この間、数多くの団体や個人の皆さまから、英語の本、サッカーボール、算数セットのご寄贈を賜ってまいりました。

私たちが、全国から本や教材を収集し、種分け・梱包作業を行い、南アに輸送するまで保管できたのは、今まで43.4平方メートルの広さを持つ作業所をお借りすることができたからです。しかし、大変残念なことです、諸事情により今年の9月30日をもちまして作業所を閉鎖することとなりました。

代わりとなる場所を見つけることは困難なため、**作業所閉鎖に伴い、絵本以外の英語の本・算数セット・サッカーボールの募集も終了させていただくことになりました。**

現地で圧倒的に不足している英語の絵本だけは、しばらくは募集を続け国際小包船便で送っていく予定です。

今まで興味や好奇心がかき立てられる多種多様な書籍類、サッカーボール、算数セットを送って下さった皆さま、梱包作業に参加して下さいました皆さま、本当にありがとうございました。

お蔭様で**1992年から2022年までの30年間で、累計491,365冊の英語の本、2,091個の算数セット、2,344個のサッカーボールを南アの貧困地域の学校に届けることができました。**海を跨いだリユース活動の一面もあったのかと思います。

深くお礼を申し上げます。

これからは日本から送らない分、必要な書籍を現地で購入することも視野に入れて学校図書室を支援していきます。

また、今まで日本から送った書籍、教材が現地でフルに活用されるようにサポートし学校図書活動を通して読書習慣を普及したり、算数セットを使った授業をサポートする現地での活動は、少なくとも今後の一年間は今まで通り行っていく予定です。

引き続き、ご寄付、ご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2022年9月15日

(特活) アジア・アフリカと共に歩む会

代表 久我祐子



# 最後の搬出作業について



作業所の閉鎖に伴い、去る8月20日、TAAAとして最後の搬出作業を行いました。会員とボランティアの10名が9時45分に集まり、10時に到着予定のトラックを待つ間、作業手順を確認しました。2トン車トラックが2台、定刻に到着し、玄関側と窓側のルート二手に分かれ、効率よく運搬作業がスタートしました。段ボールは189個あり、重さはマチマチですが、さすがに20kgを超えると腰を痛めないように慎重に持ち上げて運びます。酷暑であり、かつ、新型コロナウイルス対策でマスクをしていたため、汗が噴き出してきま

す。熱中症にならないよう、各自が適宜水分補給をしながら作業しました。始める前は、かなり時間がかかるかもしれないと覚悟していましたが、多くのメンバーが集まったこと、皆さんが一生懸命運んでくれたこと、そして作業手順が効率的であったことなどにより、約30分ですべて完了いたしました。

トラック2台を見送る瞬間は感慨深いものでした。これまで何回も送り出してきましたが、今回は最後です。ここから、トラックで陸路を運ばれ、タンカーで海を渡り、遠い南アの子どもたちに英語の本5,610冊、算数セット343個、サッカーボール138個、空気入れ10本が届けられます。

今回の運搬にあたり、タカセ株式会社様にはトラック2台で国内運送・通関業務を無償支援いただき、また、オーシャンネットワークエクスプレスジャパン株式会社様には無償コンテナ輸送をしていただきました。多くの方々の善意のバトンが繋がったことに、この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

2022年9月20日 副代表 丸岡晶



## TAAA 作業場顛末記

国内から英語の書籍を集め南アに送ることになって、最大の難関が輸出用のパッキングをするスペース確保だった。幸い前代表の野田さんが所有している学習塾を定期的に借り受ける事が可能になり冊数のカウント、重量測定と発送までの保管スペースが保証された。1992年、TAAA 作業所のスタートである。当初は塾との併用で日曜日に椅子、机を後ろに積み上げ残りの半分程度でパッキング作業を行った。インターナショナルスクールから大量にもらうと作業前の段ボールと作業後の段ボールが入り混じって



混乱の極

みに達した。その後庭にプレハブ物置を設置し、分けができるように徐々にスッキリしてくる。当初は何とエアコンが効いていて快適な温度で作業を進めたがそのうち塾の閉鎖とともにエアコン使用が出来なくなり夏は炎暑、冬は極寒の作業であった。近年、扇風機、石油ヒーターの購入で若干環境は改善されたものの毎回作業に参加された会員には苦行を強いた形になった。

諸事情により作業場の閉鎖を余儀なくされた。本年9月末の返還を控えてごみの撤去、清掃を済ませ、ガラとした作業場で一人ポツンとしていると関わってくれた数多の人々の顔が去来する。

2022年9月15日 TAAA 会長 浅見克則





# 図書や野菜作りで子どもの教育支援

# 才能発揮の場を作る

アジア・アフリカと共に歩む会(TAAA、さいたま市中央区)は4月、設立30周年を迎えた。図書の寄贈や菜園作りなどを通じ南アフリカ共和国の子どもの教育支援に携わってきた。現地で奔走する南アフリカ事務所代表の平林薫さん(61)に活動への思いを語ってもらった。

【山崎恵利花】

「どのような取り組みを。」

TAAAはアパルトヘイト(人種隔離)が崩壊して民主主義国家へ生まれ変わった南アフリカを教育面で支援したいと、1992年に発足しました。図書活動の推進、菜園作り、サッカー交流という3つのプロジェクトを通じ、貧困地域にある100校近くの学校を支援してきました。学校に図書室を設置したり、生徒主体の図書委員会や菜園委員会の設立をサポートしたりしています。課外活動が

少ないので、選択肢を設けることで、子どもが好きなことに打ち込めたり、才能を発揮できたりする場を作る狙いがあります。

——活動に携わったきっかけは。

もともとサーフィンが好きだったので、80年代に出会った南アフリカの若いサーファーからアパルトヘイトの存在を聞きまし

た。きれいな海に面した国で若い人が深刻な人種差別に直面している事実、に衝撃を受けました。それ以来、貧困問題などアパルトヘイト

の傷が残る南アフリカの教育支援に携わりたいと思っていました。

2003年にTAAAが現地NGOと連携して国際協力機構(JICA)の事業を行う際、現地プロジェクトマネージャーの仕事に依頼され、南アフリカ事務所の代表として本格的に携わり始めました。

——活動にかける思いや目標は。

アパルトヘイトの恐ろしさは、白人と有色人種を分割し、差別された人々の心に「自分

は下の人間だ」という間違った認識を植え付けたことだと思いま

す。子どもが読み書きや野菜を作る力などを身につけ、自信を持って社会に出てほしいと願います。地域によって人も社会環境も異なるので、まずは時間をかけて現場を知ることが大事。一番必要とされていることは何かを

## 「アジア・アフリカと共に歩む会」 平林薫さん(61) 南アフリカ事務所代表



や野菜を作る力などを身につけ、自信を持って社会に出てほしいと願います。地域によって人も社会環境も異なるので、まずは時間をかけて現場を知ることが大事。一番必要とされていることは何かを

見極め、どうすべきかを考えるプロセスを大切にしています。

——「共に歩む会」という名の通り、南アフリカの人々と一緒に歩んできた30年でした。支援する側・される側と

「共に歩む会」という名の通り、南アフリカの人々と一緒に歩んできた30年でした。支援する側・される側と

ロックダウン(都市封鎖)で学校が一時閉鎖してしまい、給食を食べることができず、ひもじい思いをした子どもも多かったと思います。学校再開後も、

ひらばやし・かおる  
1961年生まれ、東京都大田区出身。短大卒業後、商社に就職。南アフリカのアパルトヘイト(人種隔離)体制撤廃と民主化が進む93~94年にアフリカ民族会議東京事務所勤務。アジア・アフリカと共に歩む会(090・9957・2256)で2003年から南アフリカ事務所代表兼プロジェクトマネジャーを務める。

緒に作り上げていくことが、草の根の支援をする上で一番大切なことと感じています。何よりも子どもの明るさや現地を愛する気持ちが原動力となっています。

——今後の意気込みは。

——今後の意気込みは、引き続き支援していきたいです。

2022年5月29日(日)付  
毎日新聞朝刊 埼玉版「多士彩々」に  
TAAAプロジェクトマネージャー  
平林薫が紹介されました。



# TAAA南アフリカ活動報告

## 好奇心を引き出す算数セットプロジェクト

TAAA 南アフリカ事務所 平林 薫

### ドウエシューラ学区で算数セットプロジェクト開始

全国の支援者の皆さまからお送りいただいた算数セットは、これまでに多くの小学校に寄贈され、大切に利用されている。以前、ムタルメ学区で算数セットを使った授業を行い、生徒が算数に親しむことができた大変喜ばれた。そこで今年度は、ドウエシューラ学区の小学校5校の1-3年生を対象に算数セットプロジェクトを行うこととなった。月～金曜日に各対象校を訪問し、各学年1時間ずつ3クラスで授業を行っている。モンドリと共に算数セットを使った授業を行い、生徒たちから“先生”と呼ばれ、うれしいような恥ずかしいような気持である。



6月に学区内の図書活動対象小学校から5校を選び、校長や低学年教師へのプログラム内容のブリーフィング、各学年の生徒数把握やスケジュール調整などを行い、各校に算数セットを40箱ずつ配布した。学校によって生徒数にばらつきがあり、1クラスに60名以上の生徒という学校もあり、その場合は生徒2名で一箱を利用している。ただ、一箱をシェアすると、取り合いになったり、1人が独占して使い、もう1人は他のことをするなど様々な問題が起こる。そもそも1クラスに生徒60名以上は無理があるのではないかと校長に尋ねると、学年ごとの生徒数は考慮されず、全校生徒数に応じて教師が配置されるため、学年によって1クラスの生徒数が多くなってしまう場合があるとのことだった。教師1名では指導が十分に行えない。教育省はこのような問題を十分把握しているのだが、解決策は見えてこない。

算数セットを使った授業の内容については、国内 TAAA メンバーが元小学校教諭の方から習った具体的な使い方を参考にして、モンドリと現地の対象校や各学年のレベルに合わせてプログラムを作成した。各校とも最初の授業は教室がシーンとしており、生徒たちは緊張していたのか、固まった様に授業を受けていた。そのうち少しずつ慣れてきて、最近では“地”が出てきており、元気いっぱいだ。私自身も最初はすました顔で授業を進めていたが、今では“静かにー！よく聞いてー！”と声を囁らすところまで馴染んできた。

### 様々な課題が見えてきた

1-2年生は足し算・引き算習得の真最中で、算数に興味を持たせ、“算数嫌い”を回避できるタイミングであるが、3年生がとても難しい。多くの生徒がすでに足し算・引き算は余裕でできるため、最初は算数セット



大きな数の計算に苦勞する生徒への支援

のパーツに興味を持つが、だんだん物足りなくなってきた。一方で、各校3年生のクラスに必ず数名、20以内の足し算・引き算でも苦心している生徒が見られる。彼ら／彼女らのペースに合わせると、クラス全体は退屈してしまうので、授業の進め方が難しい。今後、教師と相談して、生徒同士が助け合える体制作りの工夫と同時に、必要な生徒に個別授業を行うことも考えている。

1年生でも1から100まで英語で数えることができるのだが、彼らは耳が良く、記憶力もいいので、まるで歌詞を覚えるような感覚なのだろう。数を数えるというより歌を歌っているようで、実際にそれぞれの数字が示す数量を把握

していない場合が多い。基本的に低学年は母語のズールー語ですべての科目を学ぶのだが、算数に限って言えば、あまり効率が良いとは言えない。例えば2は isibili、10は ishumi、12は ishumi namabili (10と2) と長くなる。母語の習得はもちろん重要ではあるが、算数に限っては最初から英語で指導した方がいいのではないかと感じる。

ウマルシ小の2年生のクラスで授業の準備をしていたところ、後方窓際に一人でポツンと座り、窓の外を見て授業に参加する意思がないような男子生徒がいた。教師に聞くと、ここ数日そのような態度が続いており、保護者にも連絡をしたとのこと。私が授業を進める間、モンドリがその生徒を図書室に連れて行き、授業の課題を一緒に取り組んだ。しかし、態度が軟化することはなく、口を開くことはなかった。ドゥエシューラ小3年生のクラスでも同様のケースが見られた。反抗期にはまだ早いと思うので、おそらく家庭内もしくは学校で何かあったのだろう。対象校には保健室もなく、図書室も授業時間中は閉まっていることが多いため、生徒には逃げ場も隠れ場所もない。教師は学習指導だけではなく、生徒の心のケアもしなければならず、特に低学年の先生方は“私はソーシャルワーカーの仕事もしているわよ”と話す。

## 算数セットで興味や才能を発揮する生徒たち

低学年では全体的に女子の方が、物事の理解も早いようだ。最初のレッスンではブロックを置くこともままならなかった女子生徒が、何回かのレッスン後には、間違った数のブロックを置いた隣の男子生徒を笑うまでになった。しかし、クラス内で飛び抜けて頭脳明晰に見えるのは男子生徒である。フランクランド小1年生の男子生徒は左利きで、ブロックを誰よりも素早く、正確に操っている。「 $15-8$ 」の問題の際にも、私が説明する前に10のブロックから8を引いて答えを出していた。課題として準備した1から30までの点を結んで絵を描く作業でも、他の生徒は16から19に飛んだり、線がよれよれになったりと悪戦苦闘する中、左手で力強い線を描き、あっという間に完成させてしまった。また、ビューラー





小3年生の男子生徒は、ボードの上におはじきを使ってデザインを描いてみようという課題で、他の生徒が何をしたらいいのかわからずきょろきょろしている間にさっさとロボットを作り上げた。このような生徒たちの興味や才能を伸ばせるよう、これからも教師と相談しながら個別に課題を出すなどのサポートをしたいと思っている。

授業が終わった後、算数セットを段ボール箱にしまいに来る生徒たちが“ありがとう”とハグしてくれる。私は“また来週ね”とハグし返すのだが、これがとてもうれしくて、生徒からエネルギーを注入されているような気持ちになる。学校で先生からよく“お子さんは？”と聞かれる。そんな時いつも“生徒みんなが自分の子どものような気持ちよ”と答えると、“そういう役割の人っているのよね”と言われる。もしこれが私の役割であるのなら、その役割を果たすための機会をいただけたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

算数セット授業に関して先生方からは、“これまでブロックのような教材がなかったので、生徒に数を具体的に把握させるのが難しかった”“授業はどんどん先へ進まざるを得ず、理解していない生徒への対応がなかなかできなかった”等の問題への対処として高評価をいただいている。そして何より“生徒が楽しんで勉強していることが一番”と話す。教材としての算数セットの機能の高さを改めて実感し、より多くの学校で利用できるようになることを願っている。次学期（第4学期）は、引き続き1-2年生への算数指導と、グレードRの1年生進級に向けた準備として、楽しみながら数とアルファベットを覚えらるような指導を行いたいと考えている。

## 日本の高校生からの大切なプレゼント

南アの子どもたちへの支援として、クラウドファンディングをしてくださった横浜女学院の皆さまから送りいただいた物資は、ちょうど私の一時帰国中に届き、現地配送業者が他人に渡してしまうというトラブルに見舞われてしまった。配送された際、向かいの家のコテージを借りている白人女性が外に出ており、ドライバーに“彼女（平林）のことはよく知っているから私が預かっておきます”と言ったそうで（その時点で私は彼女と全く面識がなかった）、ドライバーはその言葉を信じて渡してしまった。私がこちらに戻り、彼女に詳しい事情を問い質



ペンを誇らしげに掲げるメシヨムヤマ小生徒

したが、全く埒が明かないため、配送業者が警察に被害届を出して捜査を始めたところ、彼女はコテージを引き払って雲隠れしてしまいました。幸い、4箱中1箱は配達に時差があったため業者のオフィスで預かってもらい、後日配送された。1箱だけでもペン600本、クレヨン130個、子ども用サッカーボール10個が入っており、対象小学校に寄贈して大変喜ばれた。ペンを寄贈したメシヨムヤマ小とドゥエシューラ小では、誇らしげにペンをポケットに刺したり、どこに行くにもペンをしっかりと握りしめている生徒を見かける。生徒たちはこんなに素敵なデザインの書きやすいペンを持ったことがなく、まさに宝物なのだ。クレヨンとサッカーボールも大喜びで早速利用している。盗難にあった3箱に関しては大変残念で、横浜女学院の皆さま・サポーターの皆さまにご心配をおかけしてしまいましたが、現在配送業者に対して賠償請求の手続きを行っているところである。それにしても、まさかこのような事が起きる





とは想像もしていなかった。今回の件はタイミングが悪かったと言えるが、南ア社会が荒んできていることを物語っているとも言えるだろう。

中央大学杉並高校の生徒さんたちが、ひとつひとつ丁寧に、丹精込めて作ってくださった可愛い葉は、図書活動が活発なフランクランド小に寄贈した。本を借りに来た生徒が挟んで持ち帰り、本の返却の際に一緒に返すことで、みんなで使えるようにした。生徒たちは大喜びで、折り紙で作られた葉を“よくできてるなー”

とばかり、しみじみと見ていた。これも図書室利用のモチベーションにつながるだろう。

## 教師のイニシャティブで学校図書活動が学区内で普及

図書活動に関しては、ひろしま祈りの石国際教育交流財団の助成事業、「コロナ禍で損なわれた基礎教育を取り戻す緊急教育支援」を行っており、高校用の学習参考書および小学校低学年用英語の書籍を購入し配布した。また、ドゥエシューラ学区内の新規小学校2校にコーナー図書室を設置する準備を進めている。2校とも現対象校のウマルシ小で図書活動に携わっていた教師たちがそれぞれ異動した学校で、直々に依頼があった。教師たちが学校図書室の重要性を理解、認識し始めていることが窺える。



ビューラ小 朝会で生徒たちの音読

## 「やっぱりサッカーボールが一番うれしい」



対象校へのサッカーボールの寄贈は、いつもご報告している通り小学校から高校まで生徒たちに大変喜ばれている。サッカーボールを前に“これが一番うれしい”と言って憚らない校長もいるほどだ。新型コロナウイルス禍が収まった今、休み時間にはTAAA寄贈のボールを使って元気いっぱい校庭を走り回る男子・女子生徒の姿が見られるようになった。

## 生徒たちは好奇心の塊！

学校生活の中で自分自身が心から楽しめて、また能力を発揮できる活動に携わることはとても大切だと思う。また、算数セット授業で改めて感じたのは生徒の好奇心の強さで（好奇心の塊！）、もっとこの特性を利用して生徒の潜在能力を引き出せるようなカリキュラムが導入されることを願っている。TAAAは今後も何らかの形、方法で生徒一人一人の持つ可能性を伸ばせるような機会づくりを継続して行っていきたいと考えている。



# ドゥエシユーラ学区対象校12校：学校図書活動の成果・達成度一覧表（2021年1月～2022年3月）

日本NGO連携無償協力資金（N連）「ドゥエシユーラ学区の生徒の経済・社会参加に向けた学力向上と基礎技能習得（第2年次）」による学校図書活動

学校名	生徒数	2021年度 TAAA 配布書籍数	2020・2021 年度合計 TAAA 配布書籍数	2021年度 現地購入書籍数・種類	図書室 週間利用者数	読書推進活動	司書教師アンケートより	TAAA コメント
Beulah 小学校 (R-7年生)	394	170	490	42 科学技術・伝記・スポーツ・漫画	46	母語リーディングコンテスト・ブッククラブ設立・ブックレビュー・朝会で英語リーディング・祝祭日に因んだリサーチと発表	生徒の読書と図書室利用への興味・関心が深まってきた。ブッククラブを設立して、休憩時間に自発的に活動を行っている。生徒はパソコン指導を大変喜んでいる。	2年次は図書室のリソースを十分に使いこなせるようになり、新規のIT指導も順調に進んだ。図書室を利用したリサーチ等も活発に行われ、郡教育者主催のイベントコンテストでも好成績を修めた。活動の中心は高学年生徒だったため、今後は低学年担当の教師と生徒の図書室利用促進と活動への積極的な参加が望まれる。
Dweshula 小学校 (R-7年生)	470	460	1440	63 ズールー語・やさしい英語・科学・スポーツ・漫画	67	ブックレビューブッククラブ設立	生徒がコンスタントに図書室で本を借りるようになり、読書への興味と関心が高まっている。また、ブックレビューを通して書く力も身につけており、語彙力も向上している。	学校は遠隔地域にあり、周辺には娯楽施設等がないことから、生徒のコンテナ図書室と本への興味が大きい。図書委員会生徒のコロナ感染や本棚の改装などで活動が停滞した時期もあったが、事業終了までに状況は回復し、新年度（2022年）第1学期には図書委員会新メンバーによる活発な活動が見られた。
Emseni 小学校 (R-7年生)	150	280	730	41 ズールー語・やさしい英語・科学・スポーツ・漫画	18	ブックレビューリーディングコンテスト	活動は生徒の本への興味を深め、読書力と語彙力向上に役立った。	コロナ禍における活動の制限が大きく影響したが、事業終了時までに安定した活動が行えるようになった。図書委員会メンバーを含む生徒たちは図書室利用や読書に興味・関心があることから、校長を含む学校全体での図書活動へのより柔軟な対応とサポートが望まれる。
Frankland 小学校 (R-7年生)	556	590	1190	78 ズールー語・やさしい英語・科学技術・社会科学・辞書・漫画	88	ブックレビュー朝会でグループや個人での英語リーディング	生徒の読書への興味が深まった。特に図書室に様々なジャンルの本があることをとても喜んでいる。自主的に本を借り、読後のブックレビューを書けるようになった。パソコン指導はIT技術を身につけると共に、読み書き力の向上にもつながった。	2年次より対象校となったが、開始時から校長のリーダーシップの下で司書教師及び生徒が熱心に活動に取り組んだ。途中、司書教師の退職や病死などの事態に見舞われたが、図書委員会のシステムが確立されたため問題なく活動を継続することができた。生徒の本への関心が高く、読後のブックレビューもしっかりと書くことで、読み書き能力の向上が見られた。
Imbalencane 小学校 (R-7年生)	944	510	1290	70 ズールー語・やさしい英語・社会科学・漫画	63	各教室内で図書室利用の呼びかけ朝会で英語リーディング	生徒の読書への興味が深まり、自主的に図書室を利用できるようになった。	生徒数の多い学校のため、コロナ禍での分散登校の影響が大きかった。また、大きな学校でコンテナ図書室のみのため、全校生徒の本へのアクセスも不十分だった。司書教師の活動への取り組みとサポートも十分とは言えなかったが、図書委員会生徒が責任を持ち、自主的に活動する姿が見られた。
Mehlomnyama 小学校 (R-7年生)	285	290	770	58 やさしい英語・伝記・スポーツ・漫画	37	ブックレビュー朝会で英語リーディングストーリーテリング	生徒が自主的に図書室で本を借りられるようになり、読書を楽しむ生徒が増えてきた。また、社会科学や科学技術のリサーチもできるようになった。	新規のIT指導開始時に、トレーニングは図書活動の一環であることを説明したが、高齢の司書教師1名がIT活動に怖気づいてしまったため、主にもう1名の司書教師とやり取りをした。1年次は司書教師が生徒の活動をすべてコントロールするような形であったが、2年次は図書委員会生徒の自立した活動が見られるようになった。
Umalusi 小学校 (R-7年生)	500	520	1380	65 ズールー語・やさしい英語・科学技術・社会科学・漫画	72	ブックレビュー母語リーディングコンテスト朝会で英語リーディング	生徒の読書力が向上し、教室での授業にも好影響が出てきている。ブックレビューを書く力もついてきた。また、英語リーディングイベントの経験から、自信をもって発表できるようになってきた。	1年次から順調に活動が進んだ同校は、2年次も校長以下、学校全体で図書室の重要性への理解や図書活動へのサポートがあった。図書委員会生徒を中心に熱心に活動を行い、図書室利用や読書への興味が高まった。ブックレビューを書くことで、生徒の読み書き能力の向上が見られた。高学年の男子生徒は参加者が少ないため、彼らに興味を持たせるような活動や、低学年から読書力を身につけられるような活動の導入が望まれる。
Duduzile 中学校 (8-9年生)	556	600	1630	57 ズールー語小説・科学・伝記・学習参考書・漫画	75	朝会で朗読母語リーディングコンテスト・各教室内で図書室利用の呼びかけ・ブックレビュー	生徒が図書活動に興味・関心を持ち、活動は彼らの能力向上に役立っている。朝会や図書イベントにおいて、自信をもって発表・意見を言う生徒が出てきた。	コロナ禍における分散登校のため、活動時間に大幅な制限があったが、図書委員会生徒は自主的に活動を進めた。IT指導は近い将来必要なスキルを身につけられると好評で、履歴書の作成や図書活動への応用も見られた。図書室が特定の生徒に利用されていることから、今後は校内でより多くの生徒の読み書き能力向上を目指した図書室利用と読書の推進が望まれる。
Nani 中学校 (8-12年生)	241	410	1460	56 辞書・ズールー語小説・学習参考書・漫画	38	ブックレビュー朝会で朗読・スピーチコンテスト	図書室が持てたことは学校にとって大変意義が大きい。制限されていたイベントも再開し、活発に行われている。今後の図書活動へのファンディングもしている。	図書室を含む校舎の改装に少し時間がかかったが、改装終了後は司書教師のリーダーシップにより、生徒の図書室利用が着実に増加した。2年次開始当初はコロナ禍による制限のため、図書委員会活動にも多少の混乱が見られたが、年度末までには安定した。新年度には Frankland 小卒業生（元図書委員会生徒）新メンバーに迎え、活動が活発になってきている。
Malusi 高校 (8-12年生)	485	560	1860	30 科学・伝記・漫画	40	朝会で英語リーディング・詩の朗読	事業が始まって以降、生徒の図書室利用が定着してきている。学校全体の成績にも向上が見られる。	分散登校のため、学校訪問日に図書委員会生徒に会えなかったケースもあり、安定した図書活動を進めるのが難しかった。今後も継続して校内でより多くの生徒への図書利用促進を行う必要がある。IT指導は順調に行われ、図書委員会生徒が基礎的知識と技術を学ぶことができた。新年度からは他の生徒へのITパイプ指導も進んでいる。
Mangquzuka 高校 (10-12年生)	611	600	1780	39 ズールー語小説・社会科学・伝記・漫画	82	朝会で本の紹介や英語リーディング・詩の朗読ブックレビュー	図書室に様々なジャンルの本が配備されていることで、生徒の本への興味が高まっており、図書室訪問のモチベーションとなっている。学習参考書の利用が多いので、もう少し充実させたい。	コロナ禍の影響を大きく受け、活動時間、図書室利用時間が十分に取れなかったのが残念だった。2年次開始時に図書委員会が再編成され、メンバーは試用期間を学年別にするなど工夫が見られたが、転勤が徹底されておらず、かえって混乱を招いてしまった。今後は、これまでの経験をもちに、改善をしながら図書室利用促進の継続が望まれる。
Mgamule 高校 (8-12年生)	595	390	1740	38 科学・辞書・ズールー語小説・社会科学・漫画	70	各教室内で図書室利用の呼びかけ朝会で英語リーディング	すべての学年で生徒の図書室利用と読書への興味・関心が高まってきた。朝会での英語のリーディングや発表で自信をつけてきている。パソコン実習もなかなか経験できないので、参加意欲は高い。	2年次前半はコロナ禍の影響もあり、図書委員会活動が停滞したためメンバーの入れ替え等を行い、仕切り直した。年度末までには活動の安定が見られ、図書室利用者も増加した。新年度初めには、多くの新入生（8年生）が図書委員会メンバーに立候補するなど、活動に盛り上がりが見られる。今後は男子生徒の図書室利用と読書促進が課題である。
合計	5787	5380	15760	637	696 <sup>(1)</sup>			

(1) 各対象校の図書室利用者帳に基づいて集計・計算したが、全体的に記帳漏れが多かった。実際の利用者数はこれを上回ると考える。



# 2021年度（令和3年度）活動計算書

（2021年4月1日から2022年3月31日まで）

特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会（単位：円）

科 目	金 額	
<b>I 経常収益</b>		
1 受取会費		
正会員受取会費	140,000	
賛助会員受取会費	110,000	250,000
2 受取寄附金		
受取寄附金	929,833	929,833
3 受取助成金等		
受取公共助成金	0	
受取民間助成金	0	0
4 その他収益		
受取利息	73	
雑収入	3,300	3,373
経常収益計（A）		1,183,206
<b>II 経常費用</b>		
1 事業費		
(1)人件費		
給料手当	3,590,112	
臨時雇賃金	8,632	
法定福利費	0	
人件費計	3,598,744	
(2)その他経費		
プロジェクト物資購入費	421,547	
研修費	28,262	
制作費	0	
プロジェクト物資輸送運搬諸経費	702,533	
旅費交通費	158,964	
車両諸経費	1,211,287	
燃料費	324,865	
視察訪問費	0	
専門家派遣費	103,579	
施設使用料	0	
会議費	14,217	
通信・運搬費	150,130	
印刷・製本費	126,408	
消耗品費	95,303	
水道光熱費	18,750	
地代家賃	352,552	
支払手数料	0	
保険料	0	
雑費	10,804	
その他経費計	3,719,201	
事業費計		7,317,945
2 管理費		
(1)人件費		
臨時雇賃・講師代	0	
役員報酬	0	
人件費計	0	
(2)その他経費		
会議費	12,208	
旅費交通費	740	
車両諸経費	0	
燃料費	4,000	
通信運搬費	54,119	
印刷製本費	19,696	
消耗品費	22,990	
水道光熱費	0	
支払手数料	55,628	
保険料	174,194	
地代家賃	78,184	
事務所設備・修繕費	61,709	
業務委託費	0	
前年度助成金返還金	583,315	
租税公課	0	
雑費	72,916	
その他経費計	1,139,699	
管理費計		1,139,699
経常費用計（B）		8,457,644
当期経常増減額（A－B）		▲ 7,274,438
<b>III 経常外収益</b>		
1 固定資産売却益		0
経常外収益計（C）		0
<b>IV 経常外費用</b>		
1 過年度損益修正損		0
2 為替差損		0
経常外費用計（D）		0
①当期正味財産増減額（A－B＋C－D）		▲ 7,274,438
②前期繰越正味財産額		13,165,181
次期繰越正味財産額（①＋②）		5,890,743



## 主な活動 (2022年3月16日～2022年9月15日)

### 【日本国】 TAAA 会員とボランティア

3月～9月 本の受け取りと保管 北爪健一  
 3月下旬 会報送付のための住所ラベル準備 西村裕子  
 3月～4月 会報78号の編集・校正 野田千香子 久我祐子  
 3月～9月 ホームページの管理・更新など 渡恵美子 久我  
 3月～4月 会報78号の発送準備と郵送 野田 高野千恵美  
 3月～6月 N連事業完了報告書作成 平林薫 久我 大友深雪  
 3/14 ZOOM会議 久我 平林  
 3/20 梱包作業 大友 小泉信一郎 高野  
 4/1 本、算数セットを作業所へ運搬、搬入 北爪  
 4/17 梱包作業 野田 津山直子 大友 久我  
 4/17 TAAA 理事会  
 4/19 インターナショナルスクール本引きとり 浅見克則  
 5/2 梱包作業 平林 大友 久我  
 5/15 梱包作業 野田 久我 大友 平林 丸岡晶 浅見  
 5/15 毎日新聞インタビュー、取材  
 5/15 TAAA 臨時理事会  
 6月上旬 総会資料準備 久我  
 2021年度経理まとめ 監査 高野 米山周作  
 6/13 N連事業完了報告書一式 外務省へ提出 久我  
 6/17 ZOOM会議 TAAA 南ア事務所 久我  
 6/19 梱包作業 高野 大友 浅見  
 6/19 TAAA 会員総会 TAAA 報告会  
 6/20 総会議事録まとめ報告 丸岡  
 7月～8月 輸出準備 久我  
 7/3 梱包作業 浅見 大友 久我  
 7/11 本、算数セットを作業所に運搬、搬入 北爪  
 7/17 最終梱包作業 浅見 高野 野田 大友 久我  
 7/19 タカセ株式会社 訪問 久我  
 8月 作業所閉鎖準備作業 数回 浅見 高野 野田 西村  
 8/9 さいたま市市民協働推進課 訪問 久我  
 8/15 NPO法人セインとのZOOM会議  
 8/20 出荷 本5610冊、算数セット343個、ボール138個  
 会員、ボランティア 10名  
 8/21 作業所後片付け(最終) 浅見 高野  
 8/27 ZOOM会議 平林 久我  
 9月上旬 会報80号準備 野田 久我  
 住所ラベル準備 西村

### 【南アフリカ共和国】 平林薫と南アフリカのスタッフ

3/16～18 学校巡回訪問指導、第1学期末活動のまとめ  
 3/31 日本へ一時帰国  
 3/31 シェリーセンター書店で対象校配布用書籍購入  
 5/27 南アに戻る  
 6/1 モンドリと今年度の活動について会議  
 6/2～3 算数セット各対象校用配布準備  
 6/6～10 学校訪問再開、図書室の状況確認と物品の寄贈等  
 6/14～15 対象小学校訪問、算数セット配布  
 6/14～15 象校 校長・教師との会議、フリーフィンク  
 6/20～23 対象小学校訪問、算数セット配布

6/20～23 対象校 校長・教師との会議、フリーフィンク  
 書籍購入等  
 7/6 郡教育省図書部門ンデレ氏と会議  
 7/18 郵便貨物についての確認・相談にダーバンへ  
 7/19～22 第3学期開始。算数セット対象校訪問  
 授業時間割確認等最終打ち合わせ  
 7/19 ドッドゥジレ中学に本とサッカーボール寄贈  
 7/20 ムガムレ高にサッカーボール寄贈  
 7/21 インバレンチャネ小に算数セットとサッカーボール寄贈。  
 オシャベニココミュニティー・シニアグループにサッカーボール寄贈  
 7/22 ナニ高に本とサッカーボール寄贈  
 7/25～29 対象校55で算数セット授業開始  
 8/1 メショムンヤマ小に横浜女学院から寄贈のペン・クレヨン  
 子供用サッカーボール寄贈8/1～5 算数セット授業  
 8/8 学校休校のため車両点検と書籍の購入等  
 8/11～12 算数セット授業  
 8/15～19 算数セット授業  
 8/16 ビューラー小に横浜女学院から寄贈の子供用  
 サッカーボール配布  
 8/17 ドゥエシューラ小に横浜女学院から寄贈のペン配布  
 8/18 ウマルシ小に横浜女学院から寄贈のクレヨン配布  
 8/22～23 算数セット授業  
 8/25～26 算数セット授業  
 8/29～9/2 算数セット授業  
 9/2 フランクランド小に中央大学杉並高校より支援の葉を寄贈  
 9/6 ダーバンKWEへ船積書類配達(モンドリ)、平林は事務処理  
 9/12～15 算数セット授業

### ハガキ・切手ご寄附を引き続きのお願いします

幼少期の楽しい絵本の出会いは、その後の読書習慣の育みに大切なことですので、引き続き英語の絵本は募集しております。

お蔭様で良質な絵本のご寄附をいただいておりますが、最近の国際郵便小包料金の大幅な値上げにより、送料の負担が増してきています。

送料負担を軽減するため、書き損じハガキ、未使用ハガキや切手のご寄附を引き続きお願い致します。一枚から受け付けております。また、送料用として、少額からのご寄附も大変ありがたいです。ご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

ハガキ・切手の送り先住所：

〒330-0855

埼玉県さいたま市大宮区上小町1327-208

「アジア・アフリカと共に歩む会」事務局

連絡先：090-9957-2256